

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第8号

イチゴ炭疽病の潜在感染状況について

イチゴ炭疽病の潜在感染状況を調査した結果、潜在感染株率は過去9か年平均並でした。
現在、巡回調査ほ場での発病は認められませんが、今後の気象条件（高温・多雨）によっては感染拡大が懸念されますので、防除の徹底を指導願います。

1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：炭疽病

3 発生状況

(1) 7月2半旬に県下12か所の育苗床の苗から複葉を採取し、エタノール噴霧法による炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株率は過去9か年平均並で、前年より低かった。潜在感染株確認ほ場率は、過去9か年平均・前年並であった。(表1)

- ・潜在感染株率 **23.8%** (前年 38.0%、過去9か年平均 29.3%)
- ・潜在感染株確認ほ場率 **91.7%** (前年 80.0%、過去9か年平均 77.8%)

(2) 7月5半旬に巡回調査を行った結果、発病株率は平年・前年並で、発生ほ場率は平年より低く、前年並であった。(図1)

- ・発病株率 **0%** (前年 0%、平年 0.14%)
- ・発病ほ場率 **0%** (前年 0%、平年 7.7%)

4 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場をこまめに見回り、発病株及びその周辺株は速やかに除去・処分し、発病が拡大しないよう努める。
- (2) 雨よけ育苗等でも風通しが悪いと発病しやすいため、苗の間隔を空け通風を図る。
- (3) 窒素肥料を多用すると発病しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (4) 発病後に治療できる薬剤はないことから、感染を防ぐため、葉かぎ作業直後や降雨前後を含めて定期的な予防散布を徹底する。

なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5) 低温処理時の注意事項

- ア 夜冷短日処理や低温暗黒処理は、苗へのストレスがかかり発病を助長するので、入庫前に生育状況を確認し、必ず健全苗を用いる。
- イ 入庫する際は、過湿を防ぐため、苗を詰めすぎないように注意する。

ウ 入庫前および陽光処理時のかん水は、過度にならないように注意する。

表1 イチゴ炭疽病の潜在感染株率の調査結果¹⁾

(単位: %)

調査地点 ²⁾	本年度(H27年度)	H26年度	H25年度	H24年度	H23年度	過去9か年平均
糸島市	40	40	0	10	20	18.9
福津市	—	—	5	0	0	6.4
久留米市1(宮ノ陣)	—	—	10	5	10	15.0
久留米市2(田主丸)	50	30	0	25	5	12.8
筑前町	75	70	0	65	40	27.8
飯塚市	20	—	10	90	25	37.0
直方市	5	—	—	—	—	—
福智町	10	0	10	75	10	22.8
八女市1(黒木)	—	—	60	40	35	22.5
八女市2(蒲原)	0	50	0	65	—	20.0
筑後市	25	40	0	85	20	38.8
大川市	—	—	5	35	10	21.3
みやま市高田町	—	—	50	95	90	46.3
大木町	15	85	15	20	20	28.9
広川町1(太田)	5	40	5	55	75	30.6
広川町2(水原)	—	—	15	25	100	23.8
岡垣町1(野間)	5	25	0	25	35	38.3
岡垣町2(吉木西)	—	—	25	40	40	44.4
行橋市	—	—	15	35	35	24.0
豊前市1(荒堀)	—	—	5	90	60	45.6
豊前市2(久路土)	—	—	10	60	75	44.3
みやこ町	35	0	0	80	100	46.7
潜在感染株率 %	23.8	38	11.4	48.6	40.3	29.3
潜在感染株確認ほ場率 %	91.7	80	66.7	95.2	95	77.8

注) 1. 本年度とH26年度は噴霧法、H25年度までは浸漬法で実施

本年度処理日: 7月14日 本年度判定日: 7月28日 (28℃で2週間静置)

2. イチゴ育苗期定点巡回調査ほ場から、1地点20株、1株当たり1複葉を採取

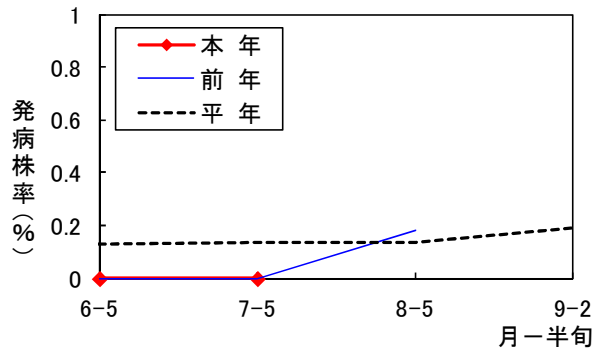


図1 巡回調査における炭疽病の発生推移

※ 前年9-2は未調査。



写真1 炭疽病による葉の汚斑



写真2 炭疽病による葉柄の褐変